

審判研修 参加報告書

大会名 全日本クラブバスケットボール選手権大会	期間 平成26年3月20日(木)～3月23日(日)
開催地 愛知県	会場 パークアリーナ小牧・一宮市総合体育館
参加者 宮地 北斗	所属地区名 札幌地区
講師: 日本クラブバスケットボール連盟 審判委員会 指導担当 上級クラス(A・AA級)→久保 裕紀 氏(国際 東京都) 体験談: 伊藤 亮介 氏(AA 東京都)、堀内 純 氏(次期国際 愛媛県) その他(各ブロック長、研修生、自費参加審判、地元大会稼働審判員)→富田 陽子 氏(国際 愛媛県) 体験談: 河辺 真由美 氏(A級 富山県)、山田 豊弘 氏(次期AA級 香川県)	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など 小澤審判委員長 代表者会議に審判委員会からお願いする事柄を周知。また、プレイヤーファーストの精神を忘れることなく、地元で培ってきた事をコートに出し切ってほしいと思います。	
実技研修、座学研修等の記録 1) 体験談発表 河辺: 新規A級としての一年間を振り返り、変化した点 ・以前より、担当するゲームレベルが上がった事 ・コートの外でも見られている事を自覚した行動を取るようになった ・バスケットに行く事が出来る環境に改めて感謝している(家庭・仕事など...) 山田: 新規A級としては河辺講師と同じような意識だった。次年度AA級になるにあたり、意識している事は、目の前の一つの試合に小さな目標(試合の中で達成できそうなもの)と大きな目標(試合で達成できなくてもよい。例えば目標とするレフリーを見つける、真似してみるなど...)を持つ事が大切だと思う。 2) グループディスカッション(テーマ: 4原則の大切さ)【8人×5グループ、グループ毎に上級講師オブザーバー】 富田: 各グループとも4原則のどれが1番大切でこれが大切では無いという事は理解していると思う、どれか一つができなくなったときに色々な事が起こる。ただ、それが全てではなく、ルールブックに書かれている事を理解する事が大切。場合によっては応用が求められる事もあると思うが、勇気を持って動いてほしい。マニュアルに載っていないから動けない...などが起こらないようにしてほしい。	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
平成26年 3月 21日(金)	対戦カード【男子1回戦】 MODERN CLUB【開催県】 vs 大西クラブ【愛媛県】
主審 ・ 副審	相手審判 雲井 俊一【近畿ブロック長 大阪府】
ゲーム前のカンファレンス内容 いつもの全国大会と違い、普段出てきていないチームがでてきているので情報が少ないので、早い時間にキープレイヤーを二人で共有する事。自分のエリアを大切に、相手がどこを視野にあてているのかを少しでも多くの時間感じるようにする。判定する位置をプレイヤーから信頼の得られる位置に行く努力を惜しまずにしよう。トラベリングやイリーガルドリブルの基準をしっかりと示す。地元でがんばってきた事を全て出し切れるようがんばりましょう。とカンファレンスした	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 三村 力丸【A級 岡山県】 ゲーム自体は何事もなく終わっているし、安心して見ていられた。 リードオフィシャルの際、体の向きをもっと研究してみると、もっと多くの情報を得る事が出来、よりよい判定に繋がると思う。また、パートナーがどこに視野をあてているかも見えるようになり、スムーズなプレイの引き渡しが可能となる。 パートナーに負担をかけている事に気づく事、またそれに関するカンファレンスを試合中も続けてしていく事で、修正可能な物は修正していく事ができるようになるとも嬉しい。	
ゲーム感想 自分では視野に入れており、プレイの判定ができていないケース(エリア3)に対して、パートナーとのダブルコールになるケースがあり、相手が鳴ったという事は、位置取りであったり、体の向きをもっと考えなければいけないと感じた。地元においても先輩や上級からエリア3についての危機感についての話があり、改善できていないところであると再認識した。リードにおいては、今後もっと色々なレフリングや自分のVTRでの検証が必要だと感じた。	

実践実技2

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

平成26年 3月 21日(金)

対戦カード【女子2回戦】 QEEN BEE【千葉県】 vs クリスタルBBC【鳥取県】

主審

・ **副審**

相手審判 菅野 恵美子【A級 岐阜県】

ゲーム前のカンファレンス内容

担当ゲームの前の試合にてレフリーが怪我をして、4Q交代となり、カンファレンス時間がないなかで、ゲーム前のオボジットサイドにて、簡単に行った。キープレイヤーを捕まえる事、オフボールプレイに関してしっかりと責任オフィシャルが判定する事、メカニックに縛られすぎず、気になるプレイは思い切って見に行く事、二人の距離と、ボクシングインの意識をしっかりと持つ事を確認した。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 畑 靖彦【A級 岡山県】

TOLレポートやコートにおけるシグナルなど、細かな動きなどが、マニュアルを徹底されており、非常に大切な事なので、これからも継続してほしい。リードの際、視野を絞るのが早いのではと感じた。そのプレイに合わせてくる他のプレイヤーの情報量をもっと増やす事で、判定位置や、タイミングなどがもっと良くなると感じるので、トライしてほしい。

パートナーとの視野の引き渡し方をプレイのケースやエリアによってゲーム中に修正できるともっとスムーズにゲームが運営され、自身の動き方も変わっていくのでは感じた。

ゲーム感想

地元でもあまり女性のゲームを担当することが少なく、緊張したが、初めてと思えるほど、手ごたえを感じる一試合であった。昨年もっと丁寧にシグナルやレポートをとアドバイスして頂いていたので、評価された事が嬉しかったし、これからのもしっかり取り組んでいこうと思えた。地元に戻って、もっと女性のゲームを積極的に取り組んでいかなければと感じた。

まとめ

昨年に引き続き派遣させて頂き、去年お世話になった方や、パートナーで担当させて頂いた方など、深く話をさせて頂く時間がたくさんあり、多くの事が勉強になった。また、男子、女子と2つのゲームを担当させて頂き、それぞれの課題が明確になった。女子に関しては、圧倒的な経験不足もあり、今後積極的にトライしていこうと思った。男子に関しては、体の向き、視野の取り方など、予測しながら先回りし、判定するための準備をもっといろいろなケースを予測できる自分へと変わらないと、動きが変えられないと思い、トップカテゴリーや、いろいろな試合をもっと勉強し、多くのレフリングを参考にバスケットの知識を増やさなければいけないと痛感しました。今後以上の点に重点をおいて活動できたらと考えます。結びに、今回の派遣に関して、御尽力頂きました北海道バスケットボール協会様をはじめとする関係者の皆様に感謝しております。この場をお借りしお礼申し上げます。ありがとうございました。